

令和元年度訪問看護に関する事業報告会

黒部市民病院
看護部長 高山 由紀子





病院の概要

- ・病床 414床(一般405床、結核5床、感染4床)
 - ・ベット稼働率 78.2%
 - ・入院基本料 入院基本料1(7対1)
 - ・診療科 35科
 - ・在院日数 12.8日
 - ・看護師数 376名(常勤)
 - ・在宅復帰率 91.3%
- (2019年7月)





病院看護出向事業とは

- **病院の看護師が一定期間、病院に在籍したまま地域の訪問看護ステーションに出向し、訪問看護に従事しながら在宅療養支援能力の向上を図ることにより、病院および看護師にとって院内の看護ケアや退院支援機能の強化に役立つスキルの獲得、訪問看護ステーションにとっては多様な人材の育成・活用の向上につながる仕組みをつくる事業である**





出向研修事業への参加を決めた理由

- ・5月頃に富山県看護協会の担当理事より研修参加について連絡をいただいた



- ・昨年度の訪問看護に関する事業報告会に参加し、参加2施設の報告を聞き刺激を受けていた

- ・今年度の当院の看護部目標に退院支援の充実を掲げていた

- ・今年度は、育児休暇取得職員が例年より少ない状況であった→年度後期の長期研修は人的に厳しいことが多いが何とかできると判断した



出向研修参加決定から職員派遣までの流れ

5月頃

・富山県看護協会専務理事より出向事業参加に関するご連絡をいただく

・院長・事務局長・総務課長に出向事業の職員派遣についての内諾をもらい、看護協会に参加の意向を伝える

・派遣職員の検討

施設の設置主体や訪問看護ステーションの受け入れの問題など、その調整にお手数をおかけしました

7月初旬

・富山県看護協会専務理事・事務局長より出向研修に関する説明があり、当院総務課長とともに受ける

・出向研修への職員派遣について院長・事務局長の正式な承諾を得て、看護協会との研修派遣の協定書を含めた事務手続きをすすめる

・派遣期間は3か月とし、派遣先の訪問看護ステーションは**新川医療圏内をお願いした**

・看護協会よりあさひ総合病院内にある朝日町在宅看護支援センター訪問看護ステーションで受け入れていただけると連絡がある

受け入れていただき本当にありがとうございました

8月初旬

あさひ総合病院において訪問看護ステーション出向研修事業について打ち合わせと研修派遣に関する**協定書**の確認を行う

出席者:あさひ総合病院看護部長、在宅介護支援センター副センター長、訪問看護ステーション管理者、富山県看護協会専務理事、事務局長、事務担当者、黒部市民病院研修出向看護師、黒部市民病院看護部長

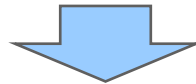
9月より
3か月間の
出向研修が
はじまる

県・受入先訪看・派遣元病院での人件費等の経費分担や派遣職員の身分の在り方やサービスに関する指示命令権など複雑であり、なかなか理解できなかった



研修派遣職員の選出について

- ・3か月という短期間であるからこそ、派遣先の訪問看護ステーションで割に早い期間で主体的に行動できる人
- ・研修修了後に病棟の退院支援の充実に向けて、リーダーシップを発揮できる人
- ・高齢者の自宅退院で困難事例が多い病棟の退院支援の充実につなげる力をもった人



循環器・内分泌内科病棟に勤務の主查看護師の派遣研修への参加を決定した





出向研修中の派遣職員への関わり

研修派遣であることから、2週間毎に研修に関する報告を行うよう依頼した



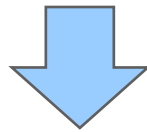
職員の訪問時に予定が合わず話が聞けない状況が続いた。2週間ごとの報告は1か月に1度、それ以上に間隔がひらくこともあり、部署の看護師長に状況を確認した。途中で、報告方法の検討が必要であったと考える





出向研修により派遣職員の学び

- ・派遣職員は、3か月間の訪問看護ステーションの業務を体験できたことで、自宅退院は無理と考えていた方も可能であることを知ることができた
- ・地域の在宅サービスや手順を理解できた
- ・朝日町の訪問看護ステーションへの派遣であったことで、地域の顔の見える関係が深まり今後の連携に活かすことができると感じている



・3か月の研修期間に関して、適切なのか短期間すぎるのか判断は難しいが、派遣職員の研修による学びや経験年数や職位など派遣職員の背景から評価すると適切であったと考える。これは、派遣元としての評価であり受け入れ施設の評価を確認する必要がある





管理者として研修派遣者の学びを活かすために

所属病棟の退院支援の充実につなげるためのリーダー的な役割を担ってほしい



- ・研修での学びを病棟および院内看護職にフィードバックする
- ・積極的に退院カンファレンスを開催する
- ・患者の生活背景にあった退院支援の実施を目指し、所属病棟において退院前後の自宅訪問が定着するための体制づくりを担ってほしい



病棟師長と連携をとり研修修了者が活動しやすい環境を調整する必要がある





最後に

派遣研修事業への参加に関しては、新川医療圏内への派遣を強く希望したことで、お手数をおかけしました。しかし、新川医療圏内の訪問看護ステーションへの出向ができたことは、地域連携の視点では派遣職員にとって当院にとって成果につながると感じています。

この訪問看護ステーション出向事業への参加に関して様々な調整をいただいた富山県看護協会の担当の皆様、職員の派遣を受け入れて下さいましたあさひ総合病院看護部長さま、朝日町在宅介護支援センター訪問看護ステーションの皆様本当に感謝いたします。

この出向研修事業の関係をとおして、新川医療圏の連携を深めることができるように努めてまいります。

